

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 蔵王産業 ノンスリップ e
会社名 町田商事株式会社
住所 東京都練馬区東大泉 7-25-1
電話番号 03-5905-5670
FAX 番号 03-5905-5674

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分 4
	皮膚腐食性/刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
	皮膚感作性	区分 1
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 2

環境に対する有害性

※上記で記載が無い有害性は区分に該当しない又は分類できない

GHS ラベル要素・絵表示又はシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	飲み込むと有害 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 臓器の障害のおそれ

注意書き

安全対策	保護手袋・ゴーグル型保護眼鏡は必ず着用 スプレーでの使用はミストを吸入するので不可 取扱後は手をよく洗う
応急措置	眼に入った場合は流水で数分間よく洗う。次にコンタクトレンズ 着用で容易に外せる場合は外して洗浄し続ける。皮膚に付着した 場合は多量の水で洗う。原液は浸み痛みがして飲み込めないが希 釈液を飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受ける 4 項参照
保管 廃棄	他の薬品と混触不可。塩素と混触すると二酸化塩素ガスが発生する 内容物や容器を国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄する

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
成分・含有量 CAS No.

クエン酸 30% 77-92-9
 酸性フッ化アンモニウム 4% 1341-49-7
 チタン HF 3% 17439-11-1
 過炭酸 Na 3% 15630-89-4
 精製水、他

4. 応急措置

吸入した場合 ・直ちに被災者を新鮮な空気の有る場所に移し症状により医師の診察を受ける
 皮膚に付着した場合 ・直ちに水で良く洗い流す
 目に入った場合 ・直ちにまぶたを開いて流水で洗眼し(5分以上)医師の診察を受ける
 飲み込んだ場合 ・刺激痛がして飲み込む事は出来ないが希釈液を飲み込んだ場合は直ちにアルカリ飲料を飲ませ症状により医師の診察を受ける
 意識が無い場合は何も与えては成らない
 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 ・データ無し
 医師に対する特別な注意事項 ・データ無し

5. 火災時の措置

適切な消火剤 ・不燃性物質 周辺火災に適した消火剤を用いる
 使ってはならない消火剤 ・データ無し
 火災時の特有の危険有害性 ・データ無し
 特有の消火方法 ・危険でなければ容器を火災区域から移動する
 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 ・適切な保護具を着用する 8 項参照

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 8 項参照
 環境に対する注意事項 ・環境への放出を避ける
 封じ込め及び浄化の方法及び機材 ・河川に流れない様にする。多量の場合は石灰乳で中和し多量の水で濯ぎ流す
 二次災害の防止策 ・他の薬品と混触不可。塩素と混触すると二酸化塩素ガスが発生する

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い
 技術的対策 ・斜面での容器転倒に注意する
 ・容器を転倒若しくは落下する等の衝撃を与えない
 ・予め材質テストは必ず行う メッキ製品は不可
 安全取扱い注意事項 ・作業中は換気を良くする・保護手袋ゴーグル型眼鏡は必ず使用
 ・長時間のメンテ、洗浄面と近接の場合はカルキ入りマスクを使用する
 ・環境により簡易雨具を着用し皮膚に掛からぬ様注意する
 ・噴霧器及びスプレーはミストを吸入するので使用しない
 ・取説、SDSを参照してから使用する
 接触回避 ・他の洗浄剤との混触はしない
 衛生対策 ・データ無し
 保管
 安全な保管条件 ・密栓した容器で直射日光を避け換気の良い暗所で保管する
 混触危険物質 ・塩素系とは混触しない(二酸化塩素ガスが発生する)

- ・ 強アルカリ物質と混触しない カラーサッシは不可
- 安全な容器包装材料
 - ・ ポリエチレン等の石油製品を使用する
 - ・ 小分けする場合は容器の材質テストを必ず行う
 - ・ 発泡スチロール、ガラスは不可

8. 暴露防止及び保護措置

- | | |
|----------|--------------------------|
| 設備対策 | ・ 特に記す事は無いが盗難と子供に注意する |
| 管理濃度 | ・ 設定されていない |
| 許容濃度 | ・ 設定されていない |
| 保護具 | |
| 呼吸用保護具 | ・ 状況によりカルキ入り保護マスク使用 7項参照 |
| 手の保護具 | ・ ゴム手袋 穴が開いていないか確認する |
| 眼、顔面の保護具 | ・ ゴーグル型保護眼鏡 |
| 皮膚及び身体 | ・ 状況により簡易雨具着用 |

9. 物理的及び化学的性質

- | | |
|-------------------|-----------|
| 物理的状态 | ・ 薄赤色液体 |
| 臭い | ・ 無臭 |
| pH | ・ 3.5 |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | ・ 80℃を超える |
| 融点・凝固点 | ・ データ無し |
| 可燃性 | ・ 不燃性物質 |
| 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 | ・ データ無し |
| 引火点 | ・ データ無し |
| 自然発火点 | ・ 不燃性物質 |
| 蒸気圧 | ・ データ無し |
| 密度及び/又は相対密度 | ・ データ無し |
| 相対ガス密度 | ・ データ無し |
| 分解温度 | ・ データ無し |
| 動粘性率 | ・ データ無し |
| 溶解度 | ・ 水に溶解 |
| n-オクタノール/水分配係数 | ・ データ無し |
| 粒子特性 | ・ データ無し |

10. 安定性及び反応性

- | | |
|------------|---|
| 反応性 化学的安定性 | ・ 此の製品自体は反応しない |
| 危険有害反応可能性 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高温にすると含有成分が蒸気として放出し危険で有る ・ 各種酸化物を溶解する アルミ、鉍物を含有する陶磁器とは表面反応をおこす(変色) |
| 避けるべき条件 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高温及び衝撃による破損 ・ 直射日光、熱、強アルカリ物質との混触 |
| 混触危険物質 | ・ 他の工業薬品と混触しない・ 特に塩素系物質、過酸化水素 |
| 危険有害な分解生成物 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 塩素系物質。有毒な二酸化塩素ガスが発生する ・ 高温にすると含有成分が放出する |

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	・ 飲み込むと有害 区分 4
急性毒性(経皮)	・ データ無し
急性毒性(吸入:気体)	・ 液体品 区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気)	・ データ無し
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	・ データ無し
皮膚腐食性/刺激性	・ 皮膚に触れたら即水洗いしないと激しく染み痛みがする 放置すると浸み痛みがし酸焼け（皮膚腐食）する
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	・ 即、洗眼しないと角膜を損傷する
呼吸器感作性	・ データ無し
皮膚感作性	・ アレルギー皮膚炎を起こすおそれがある 区分 1
生殖細胞変異原性	・ データ無し
発がん性	・ IARC・NTP・産衛学会に記載されていない
生殖毒性	・ データ無し
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	・ データ無し
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	・ データ無し
※気道刺激、肺機能低下などの肺障害を引き起こす恐れが有る（フッ化アンモニウム 100%）	
誤えん有害性	・ データ無し

1 2. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(短期/急性)(長期/慢性)	・ データ無し
残留性・分解性	・ データ無し
生体蓄積性	・ データ無し
土壌中の移動性	・ データ無し
オゾン層への有害性	・ データ無し
一般的な注意事項	・ 魚の棲息する河川に流れないように注意する 13 項参照

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	・ 多量の場合は石灰乳で中和(ph7) し、多量の水で希釈して廃棄する ・ 河川法及び地方条例に従う事
汚染容器及び包装	・ 空容器を廃棄する場合は良く濯ぎ洗いする事

1 4. 輸送上の注意

国内規制	・ 規定に従う事
特別な安全対策	・ 容器の破損、漏れが無い事を確認 ・ 荷崩れ防止を確実にを行う

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	・ 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第 9 の 487 弗素及びその水溶性無機化合物 ・ 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具の 使用義務物質 皮膚刺激性有害物質 フッ化アンモニウム
消防法	・ 非該当
毒劇法	・ 非該当 基準に該当しない
航空法	・ 腐食性物質
船舶安全法	・ 腐食性物質

水質汚濁防止法	・ 有害性物質 弗素及びその化合物
水道法/下水道法	・ PH5.8 以上 8.6 以下にして廃棄する・ 地方条例に従う事
P R T R 法	・ 規制物質・ F の規制値 8mg/L (F,海域以外)、15mg/L (F,海域)
	・ 政令 1 - 414 第一種指定化学物質 374 号 フッ化アンモニウム

16. その他の情報

引用文献	・ 事故災害例無し ・ 当 S D S は JIS Z7253:2019 に準じて作成しています ・ 化学薬品混触危険ブック東京消防庁編 ・ 厚生労働省生活衛生局化学品安全課 ・ (社) 日本化学工業会 ・ 化学工業日報
------	---